

拍節を感じて仲間と音楽を楽しむ生徒の育成

～中学校で使用する教材を用いた表現と鑑賞の実践～

小出特別支援学校 中学部 太田晴子

1 教師のねらい

実態

音楽を楽しむ気持ちはあるが、一定のリズムを持続することが難しく、合奏ではタイミングがずれてしまう。

目指す姿

拍節を意識して、仲間と一体感をもちながら合奏する。

拍節とは、
等間隔で刻まれるリズム

2 指導の概要と工夫

パターン化された学習の流れ

リトミック

鑑賞

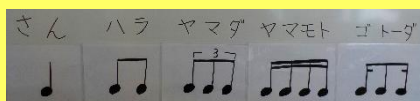
表現 【歌唱】【器楽】

全ての活動を
「拍節」に関連
づける

等間隔でリズムを刻む練習

- ・1拍目を楽器の音で際立たせる
- ・リズムを言語化してインプットさせる

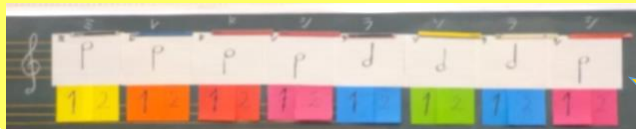
曲の練習に反映



編曲

- ・各フレーズの最初の音を使い個に応じてアレンジ
- ・易しいリズムの使用

楽譜の提示



音の高さと長さを色別に提示

2拍ずつトーンチャイムで打つ

- ・中学生用の教材を使用
- ・主旋律がドレミの音階で構成されている曲
- ・音の跳躍が少ない曲

支援具の工夫

うちの合図を指揮に演奏する



演奏形態の工夫



- ・音階順に並ぶ
- ・順番を意識しやすい
- ・支援者が目立たない

選曲の工夫

- 【鑑賞】 パッヘルベル作曲「カノン」
 - ・中学生の音楽（教育芸術社のCD）
 - ・YouTube (Pachelbel Canon in D Major) 主題の聴き取り
- 【歌唱】 「遠い日の歌」
- 【リトミック】 星野源「ドラえもん」

3 まとめ

【成果】

- 1拍目を意識させたリズム練習を重ね、自分の立ち位置と担当音をリンクさせたことで、音楽の流れに乗って、タイミングよく楽器を鳴らすことができた。
- 生徒の実態に合わせて編曲したことで、中学生用の教材で歌唱と器楽の表現活動をする事ができた。
- 仲間と一体感をもって演奏し、発表の場で達成感を味わうことができた。

【課題】

- 発語のない生徒が歌唱活動を楽しむための手立ての工夫。